

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ブロッサム	代表者	藤原 美里	法人・事業所の 特徴	開設してから、5年目になりますが、「地域の人気者」をモットーに地域に密着した事業所を目指し、利用者がおかれている環境や地域の事を理解し、その方らしく自立した生活ができるように支援し、その方に関わる全ての人々が少しでも幸せに生活できるように、取り組んでいきます。
事業所名	小規模多機能センターきらり妹尾	管理者	藤原 美里		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	人	人	1人	1人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の生活歴・習慣をしっかり聴き取り、その方らしく生活できるようにする。スタッフ間で情報共有し、プランを作成する。	知り得た情報をタブレット、連絡ノートなどに記載して共有できるようにした。利用者の日常の様子を把握しプランに反映できるようにした。	コロナ禍で連携があまりとれていないが努力は伝わりました。	情報を共有し、利用者担当を中心に状態・ケア内容を発信していく。記録入力漏れがあるので対策を決め、日頃の状態や関わった内容を記載できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナの感染対策を徹底しながら、活動しやすい環境づくりを心掛ける。季節の応じた活動・イベントを検討する。	コロナ感染拡大にて活動数は少ないが、換気・消毒を徹底しながら、季節のイベントを開催することが出来た。	整理整頓を行い、環境を整えながら、利用者が笑顔で楽しめる活動を提案して頂けたらと思います。	季節のイベントを企画し、出来る限り季節を感じて頂けるように工夫する。 ドライブや散歩・体操を行い利用者が笑顔で過ごせる環境づくりに取り組む。整理整頓をする。
C. 事業所と地域のかかわり	社会資源について学ぶ。コロナ感染予防し地域の行事に参加できるように対策・体制を整える。	施設内コロナ感染拡大もあり、外部との関わりが持っていない。社会資源についての勉強会を実施できた。	コロナの状況を見ながら、地域のイベント・会議に参加、ボランティアの方も施設に着て頂き、地域との交流が増えてきたらよいと思います。	コロナ感染対策を行いながら、地域のイベントやボランティアに来ていただき地域との関わりを持てるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	送迎時・訪問時に近隣の方がおられた挨拶をする。状況に応じて近隣住民や民生委員と連携をとっていく。	地域の方と会った時は挨拶をするように心がけている。コロナ禍であるが地域でのイベントの情報を少しずつだが入手することが出来た。	その方その方の生活環境や地域の事にもう少し目を向け活動出来たら良いと思います。	送迎時や訪問時に地域の方に挨拶をしたり、掲示板があれば目を通し地域の活動を知り可能な限り参加できるようにする。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>施設での現状報告と取り組みを発表できる場を設ける。 コロナにより開催が難しい時は、資料作成し配布。地域との情報共有・連携を図る。</p>	<p>施設での取り組みを運営推進会議やきりり通信などで外部にお伝えすることが出来た。会議が開催できない時は、書面にて活動内容等を配布し情報提供を行うことが出来た。</p>	<p>地域にどのくらいの高齢者がおられてどのような取り組みをしているのか情報共有し活かせて行けたらと思います。</p>	<p>偶数月には運営推進会議を行い、地域での取り組みや意見等を共有し、事業所での活動に活かしていく。地域の活動に参加できる体制を整える。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>マニュアルを周知し、防災訓練・災害について体制を整え実施する。 備蓄品の点検をする。</p>	<p>マニュアルを作成、防災訓練を計画し実施することが出来た。備蓄品については定期的に確認できていない</p>	<p>地域での防災のイベントや会議に出席し取り組みなどを共有したら今後の活動に活かせると思います。</p>	<p>マニュアルを参考に災害・防災訓練を実施し、前回の反省を含め次に繋げれるようにする。備蓄品の点検を定期的に行うようにする。</p>